

## 「一つの町のように」 中学生が陸・空自衛隊で職場体験



防火服の試着



技官から話を聞く生徒たち

自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・菊池雅也1等空尉）は、10月1日（水）から3日（金）まで、陸自板妻駐屯地（御殿場市）、空自静浜基地（焼津市）、空自御前崎分屯基地（御前崎市）で行われた掛川市立大浜中学校2年生13人の職場体験学習に協力した。

初日は板妻駐屯地を訪問し、陸上自衛隊や同駐屯地に所在する第34普通科連隊が行った県内での災害派遣活動などについて学んだ。また、車両や展示用の戦車、施設などを見学したほか、体を動かす訓練用の障害物コースと格闘体験を行った。

2日目は、静浜基地で航空自衛隊の役割と同基地の任務について説明を受けた後、管制塔や各部隊を見学した。補給隊では救難器材の体験、消防小隊では防火服の試着と放水体験、飛行隊では訓練に使用されるT-7初等練習機の操縦席に座る体験を行い、生徒たちは幅広い航空自衛隊の職種に理解を深めていた。

3日目は、学校から最も近くにある御前崎分屯基地を訪れた。太平洋の空域を24時間態勢で監視している同分屯基地の役割などを聞いた後、基地施設の見学、敬礼や気を付けといった基本教練の体験を行い、食堂では食事の献立を作る技官の話を聞いた。

生徒たちは3日間の体験を通して、「食事がおいしかった。栄養士や調理師の方が、隊員に好みを聞くなど飽きないように工夫していると聞いて、おいしさの理由が分かった」「基地や駐屯地は一つの町のように感じた。いろいろな職種があることや、やりがいについて知ることができて良かった」と感想を話していた。袋井所は、今後も部隊と連携し、基地、駐屯地見学等あらゆる機会を活用した積極的な広報活動に努めていく。

## 陸海空自衛隊が県総合防災訓練に参加



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久1等陸佐）は10月19日（日）、焼津・藤枝市等で行われた令和7年度静岡県・焼津市・藤枝市総合防災訓練に参加した。

大規模地震の発生を想定したもので、両市をメイン会場として、自衛隊は陸・海・空航空機の受入訓練や海自艦艇の海上輸送訓練、陸自部隊による救出・救助訓練などを行った。

静岡地本は、大井川防災広場（焼津市）と藤枝総合運動公園（藤枝市）の会場に、陸自第34普通科連隊とともに広報ブースを設置。災害対処器材や車両展示と併せて、ロープ結索体験や災害派遣活動パネル展示を行った。

ロープ結索体験では、「日常で荷物を固定する際にも使える。簡単なので今度周りの人にも教えたい」と話し、積極的に技術を身に付ける参加者もいた。

静岡地本は、今後も県や自治体と連携し、広報活動を通じて地域住民の防災意識向上を図っていく。